



仏教・真宗を楽しく学びながら

生活に活かす講座 VI-08

今からはじめる仏教入門

第八回 よくある質問／仏教ユーモア

歴史を変えたブツダの教え

2022年12月27日 / 厳念寺

講師：ケネス田中先生

武蔵野大学名誉教授

連絡先：chacotanaka@gmail.com

(質問・意見歓迎)

第八回 よくある質問／仏教ユーモア／歴史を変えたブツダの教え

十二月二十七日

〈Ⅰ〉 仏教についてよく聞かれる質問 1

宗教としての仏教／ブツダと目覚めた人々／教え／仏教の種類や宗派
他の宗教／仏教についての誤解／なぜ仏教なのか？

〈質疑応答 ①〉 20

〈Ⅱ〉 仏教ユーモア 26

言葉の遊び・洒落／仏教の特徴／大切な教え／目覚めた人

〈Ⅲ〉 歴史を変えた仏教の教え 45

〈質疑応答 ②〉 47

今年「今からはじめる仏教入門」というテーマで講座をいたしました。仏教以前のバラモン教とかヒンドゥー教から始まって、お釈迦様の生涯、そして仏教の主な教えについてお話して来ました。一応、仏教の歴史や教義のテーマは簡単にカバーしたつもりですから、それを土台として、今後は学んでいただければと思います。

今日は先ず「**仏教に関してのよくある質問**」についてお話します。日本ではあまりないかも知れませんが、アメリカなどでは「あなたの宗教は何ですか？」と聞かれることがあります。その時にすぐに答えなければならぬようなニーズ（必要性）があります。それで「**仏教とは何ですか？**」という問いに端的に答える内容について述べてみたいと思います。皆さんにとっては、今年の第六期の仏教教室で既にお話したことの復習になるのではないかと思います。

二番目には、私の好きな「**仏教ユーモア**」を、そして「**歴史を変えたブツダの教え**」を一つだけ紹介したいと思います。

〈I〉 仏教についてよく聞かれる質問

● 宗教としての仏教

〈I〉 仏教についてよく聞かれる質問

仏教とは何ですか？

仏教は世界宗教の一つです。そして仏教徒たちは、人々の苦しみを克服するために真理に目覚めたブッダのようになることを目指すのです。「ブッダ」というのは「真理に目覚めた人」のことです。その目覚めた真理（教え）を学んで、そして同じような境地に達したいという目的を持って努力するのが仏教徒です。

私たちのような在家者（ざいけしや出家修行者と違って、普通の生活を営んでいる一般の人たち）は、お釈迦様（ブッダ）と同じようなレベルにはとても達することはできないということとは、この講座でも話しましたけれども、ある程度までは可能です。

仏教は宗教ですか、それとも哲学ですか？

宗教にしても哲学にしても、その定義の仕方によって答えも異なってきます。ですから、ここでは「ケネス・タナカ」の意見として述べるつもりです。そして目的としては、皆さん自身も自分の答えを出せるようにしてもらいたいと思つのですね。

ブッダは、弟子たちに目覚め（悟り）を達成するために自分自身を養成する方法を教えました。従

〈I〉 仏教についてよく聞かれる質問

って、仏教は「宗教」または「哲学」という通常の定義に簡単に当てはまりません。

最終的に言いたいことは、仏教には宗教的な要素と哲学的な要素と両方を持っているということですよ。ただし、欧米などで言う「宗教」とは必ずしも同じではありません。

それでは、**仏教は宗教と言えないのですか？**

「宗教」にはいろいろな定義があるのですけれども、皆さんは「宗教」といつと、どのように説明するでしょうか？

海外では、創造主である全知全能の神を認めないので、仏教は宗教ではないと言っている人もいます。その一方で、仏教は信仰、儀式、実践を含み、それは信者にとって「最も大切なこと」であるので宗教であると言えます。

例えばキリスト教では「全知全能である神様が世界をお創りになった」としますから、それが宗教であるのであれば、仏教は宗教とは言えません。けれども、仏教は信仰や儀式や実践もあり、人々が「自分にとって最も大切なこと」であると受け取っています。「最も大切なこと」というのは宗教の特徴ですので、そういう意味では仏教は宗教となるのです。

〈I〉 仏教についてよく聞かれる質問

もしそうなら、**仏教は哲学ではないのでしょ**うか？

仏教には、四聖諦ししようたたいのような哲学的、知的、または合理的な性質を持つ教えが含まれています。「哲学」といって、どちらかといつと合理的・理性的な営みです。そついつい面では四聖諦や八正道はつじょうだうなどは哲学的です。しかし、信仰・倫理・瞑想も含まれているので、仏教は単なる哲学ではないのです。哲学では実践や瞑想などは勧めません。しかし、仏教には信仰・倫理・瞑想・儀式もあります。また、世俗的な現世利益げんせいりやくも入ってきています。仏教は、本来は哲学的で理性的なのですが、世界宗教になって広がりを持つ過程で、いろいろな人たちのニーズに応えなければならなかった。初期の段階から瞑想はありましたが、その後、ニーズに応えるような儀式等の実践が生まれて来たのです。

なぜ仏教は「世界宗教」なのですか？

アジアに集中していますが、仏教徒は今日、北米、ヨーロッパ、オセアニアを含む世界の多くの地域でも見られます。つまり、世界の広い地域に広まっているので「世界宗教」と言えるのです。

〈I〉 仏教についてよく聞かれる質問

他の主な世界宗教はどれですか？

「世界宗教」と言われるものとしては、約二十三億人の信者を持つキリスト教と、約十八億人の信者を持つイスラム教があります。仏教徒の数は約五億人です。

日本では仏教徒が何人いるのかというと、見方によって異なります。家が仏教であるという場合を含めると、八千五百万人くらいになりますけれども、その人たちが仏教のことをよく知っているかという点、それほどでもないと言えるでしょう。またこの人数に入る人でも、自分自身を「仏教徒である」と言わないかも知れませんね。

三つのうちどれが最も古いですか？

仏教は紀元前五〇〇年頃に始まりましたが、キリスト教は西暦の初め頃にスタートし、イスラム教は西暦六五〇年頃に始まりました。ですから仏教が最も古いのです。

ヒンドゥー教が「世界宗教」と見なされないのはなぜですか？

それは、仏教（約五億人）よりも多くの信者（約十一億人）がいますが、ヒンドゥー教は主に一

つの国または文化圏であるインド亜大陸に限定されているからです。しかし、ヒンドゥー教を「世界宗教」と見なす専門家もいます。

●ブツダと目覚めた人々

人間はブツダになることができますか？

はい、できます。それは、釈尊（お釈迦様）はネパールとインドの国境付近で生まれた人間であり、三十五歳で目覚めた（悟った）ことから「ブツダ」となったのです。神様ではありません。

「ブツダ」とはどういう意味ですか？

サンスクリット語では、苦しみから解放された「目覚めた人」を意味します。多くの仏教徒の目的は自分自身がブツダになることです。

菩薩は誰ですか？

菩薩とは、(一) 目覚めるための真剣な求道者、または (二) 高い目覚めのレベルに達成し、他の人を目覚めに導くことに専念している人のことです。大乘仏教になってから、観音菩薩という神様のよつな菩薩が多く登場してきました。

何に〈目覚める〉のですか？

事実が目覚めるのです。事実を示す教えの一例として、〈存在の四つの印(四法印)〉(しほつしん)があります。それは、(一)「人生の旅路はデコボコ道だ(一切皆苦)」、(二)「人生は持ちつ持たれつだ(諸法無我)」、(三)「人生は無常だ(諸行無常)」、(四)「人生はすばらしいものにできる(涅槃寂靜)」です。

〈目覚める〉ことによってどう変わるのでしょうか？

喜び、寛大さ、思いやり、好奇心、元気さ、穏やかさ、感謝などが高まります。一方、欲望、怒り、憎しみ、愚かさ(G. A. S. (三毒の煩惱))に振り回されることが減少すると言えます。

〈目覚めた〉人が持つようになる資質は何ですか？

〈目覚めた〉人たちは生き物への深い慈しみと思いやりを感じ、すべての人々を平等に扱い、すべての生き物と自然との深い絆きずなを感じるようになります。

仏教・キリスト教・イスラム教のような「本当の宗教」には三つの要素があると、私は考えています。それは①慈しみ（愛情）、②平等性（他者を平等に扱う）、③一体性（繋がり／絆きずな）ですね。

● 教え

聖書やコーランのような聖典はありますか？

はい、それは「経典」と呼ばれ、主にブツダの説いた教えが含まれています。しかし、経典は多数にのぼるため、聖書やコーランのように一冊の本には収まりません。

仏教の経典というのは膨大な量があります。コーランやバイブル（聖書）のようにすべての人が認める一つにまとまったものがあるわけではありません。

カルマ（業ごう）とは何ですか？

〈I〉 仏教についてよく聞かれる質問

「カルマ(業)」^(まじ)というところ、アメリカ等では「運命」のように誤解されていることがあります。日本でも「過去の業を背負って仕方がなく生きていかなければならない」というような誤解された言い方がありますよね。

カルマ(業)とは運命や罰を意味するものではなく、私たちの「行為」のことです。具体的にいうと、私たちがどう考え、何を話し、何を行うか―つまり「身・口・意の三業」を指すのです。カルマ(業)の質を高めることによって、私たちの心を育み、多くの人よりも深い幸福感、満足感、感謝の気持ちを感じることができるようになると言えます。

日本には華道とか茶道とか柔道など「道」という漢字が付く営みがあります。仏教も以前は「仏道」と言われていました。ワケの分からないことをただ信じることではないのですね。身口意で行うこと、実践することが含まれているのです。

それでは、カルマ(業)は運命や罰のことではないのですか？

はい、違います。従って、多くの人はこの言葉を誤って使っています。さらに、カルマ(業)は必ずしも、悪いまたは否定的なものとして考えられるべきではありません。なぜなら、私たちが仏教の

教えに従って行動すれば、それはポジティブな結果を生むことになるからです。

それでは、カルマ（業）は私たちの心と感情のあり方を決めるのですか？

そうですね、仏教の教えに沿って考え、話し、行動すればするほど、私たちは幸せになるだけでなく、もっと落ち着いて自信が出てくるのです。

カルマ（業）よって、我々が他者により好かれるようになったり、社会的に成功したりすることが出来ますか？

カルマ（私たちがどのように考え、どのように行動し話すか）が、それを必ず保証することはできません。しかし、あなたが人から好かれたり、成功したりすることを保証はできなくても、可能性を高めることができると思います。それは、人々があなたを信頼できると感じ、付き合いたいと思つようになるからです。

ブッダは輪廻を信じましたか？

ブツダは「輪廻りんね転生てんせい」（命あるものが何度も生まれ変わり、人だけでなく動物なども含めた生類として生まれ変わること）」という見方を、当時の確立されていたインドの世界観として受け入れました。しかし、悟るために「輪廻」ということを信じることが必須とは思ってはいなかったと私は思います。大切な事は、教えを聞いて、今からどのような行動をするのかということです。

仏教徒は「祈る（pray）」という行為を行いますか？

人々と私たちの平和と心の幸福を祈ることは行いますが、それは現世利益げんせいりやくを祈るようなものではありません。

しかし、一部の仏教徒は世俗的な利益を祈っていますね？

それは事実ですが、そういう人はブツダの本来の教えに忠実とは言えません。

● 仏教の種類や宗派

仏教にはいくつの種類がありますか？

二つです。テーラヴァーダ（上座部仏教）とマハーヤーナ（大乘仏教）です。上座部仏教は主に東南アジアで、大乘仏教は東アジアやチベットで見られます。密教（金剛乗）を第三の種類と考える人もいますが、ほとんどの学者は密教を大乘仏教に含めています。

世界で最も多くの仏教の宗派がある都市はどこですか？

意外だと思われませんが、それはアメリカのロサンゼルスです。約百の仏教宗派が存在するのです。そしてホノルル、サンフランシスコ、シアトル、シカゴ、ニューヨークのアメリカの大都市とカナダのバンクーバーとトロントが続きます。

すべての宗派に共通することは何ですか？

それは、「三宝」と言われることです。①ブツダ（目覚めた人）、②ダルマ（教え）、③サンガ（指導者と仏教徒の共同体）です。仏教のすべての宗派の人々は、三宝を心の依り処とするからです。また、三宝に帰依することが「仏教徒となる」儀式ともなっている場合が多くあります。

〈I〉 仏教についてよく聞かれる質問

● 他の宗教

他の宗教の人々の救いはどうなりますか？

私たち（仏教徒）は、すべての真の宗教はその信者たちを目的に導くことができると思っていますので、他宗教の人たちが救われないとは決して言いません。

仏教徒は神を信じますか？

それは「神」の意味によります。「神」が真理と慈悲（または愛）を指す場合は「はい」と答えるでしょう。しかし、神が宇宙の創造者であったり、私たちの裁定者であったりするのであるなら「いえ」と答えるでしょう。

仏教徒はそれ（真理と慈悲）を「神」とは言いませんね？

はい、「神」とは言いません。「ダルマ（法）」と呼んでいます。これは、教えの基となる「究極の

リアリティーまたは真理」のことです。お釈迦様が悟りを体験したことを「ダルマが現れた」と証言されています。

仏教とユダヤ教、キリスト教、イスラム教との主な違いは何ですか？

仏教徒は、神が人と宇宙を創造したとは考えません。従って、私たちは宇宙がどのように始まり、機能するかについての科学的説明を素直に受け入れることができます。

● 仏教についての誤解

仏教は悲観的であると言えませんか？

仏教では「苦悩」についてよく説いているので、悲観的な教えではないかと受け取られている場合がありますが、悲観的であるとは思いません。仏教の教えは、私たちの「苦しみ」に効果的に対応し、私たちを目覚めへと導き、それによって人は幸せになるのです。

〈I〉 仏教についてよく聞かれる質問

〈目覚めた〉人は無感情となり、生きることに無関心となると聞いています。これは本当ですか？

正しくありません。ブッダは他の人々の苦しみを痛感し、他の人々がブッダ同様に本当に幸せになれるように四十五年かけて、その智慧ちえを分かち合ったのです。ブッダや親鸞しんらんや道元どうげんなどが、他者の為に尽くした生き方を見れば、よく分かります。心が動揺しなくなり、苦悩から自由になるということは、無関心になるということではありません。

それならば、仏教徒は社会に対して無関心であるとは言えないですね？

その通りです。仏教がインドだけでなく世界中に広まった理由の一つは、社会のニーズに真摯に応えることができたからです。

しかし、ローマ法王ヨハネ・パウロ二世は「ブッダが体験した『悟り』は、この世は悪であり、人間の悪や苦しみの源であるということに尽きる」と述べました※。

苦しみの源は〈この世〉ではありません。ヨハネ・パウロ二世は正しく仏教を理解していなかった

のです。正しい理解は、苦しみの原因が、私たちの自己中心的な貪欲、怒り／憎しみ、無智（三毒の煩惱）などであることが教えています。

※ヨハネ・パウロ二世『Crossing the Threshold of Hope』（『希望の扉を開く』）。（Alfred A. Knopf、一九九四年、八十五ページ）より

それで、**仏教は「この世」が悪であると見ないのですね？**

はい、世界はすべて肯定的でも、すべて否定的でもありません。世界は**「あるがまま」**の通りです！
ですから、世界が善いか悪いかは、私たちが世界をどのように見て、どのように関かわって行くかにかかってくるのです。

『**法句経**』に記録されているように、「**ものごとは心にもどじき、心を主として、心によってつくり出される**」とごいっています。（中村元訳『真理の心』111）

仏教は心だけを気にしているようですが。

仏教は本質的に主観的または心理的です。目標は、心をより幸せで、より賢く、より思いやりのあ

る目標に向けて変えることです。そうすることにより、より平和で幸せな世界に貢献することができます。

● なぜ仏教なのか？

仏教のどの点が好きですか？

いくつかあります。仏教では仏教のみが唯一の正しい教えであるとは思っていません。他の宗教も平和と幸福への有効な道として認めている寛容的な性質を持っています。

他にはどのような点が好きですか？

世界がどのように始まったのかという科学的見解を十分に受け入れ、自然界に対する好奇心と探究心を維持できるのが好きです。科学的な見地を否定する宗教もあります。例えば、アメリカではワクチン接種を拒否する宗教グループも多く存在します。

〈I〉 仏教についてよく聞かれる質問

他にありますか？

はい。ブツダは「すべての衆生しゆじゆせい（命あるもの）は、仏性ぶつじやう（目覚めに至る可能性）を持っている」と説きました。これは、人間だけでなく、動物、鳥、魚、その他の生き物も尊いということを意味します。

仏教の好きな点をもう一つ挙げてもらえますか？

仏教の教えに興味がなくても「罪」にはならないのが好きです。興味がない場合は、興味が出るのを待つのです。

仏教に惹かれる理由は他にありますか？

出家者でない私たちにとって、主体的な理解を重視するのが好きです。これは、私たちがタルマ（仏法／教え）を何も疑わずに信じるのではなく、自主的に（主体的に）納得した上でのみ受け入れることです。仏教は、カルトのように、指導者が言つことを丸呑みするような宗教ではありません。

〈I〉 仏教についてよく聞かれる質問

それで、ブツダは本当にそういうことを奨励したのでしょうか？

はい、ブツダは「私たちの本に書いてあるから受け入れられるはずだとか、先生がそう言ったからという理由で、その発言を受け入れないでください」と教えています。ブツダは人々が教えに関心を持つてよく考え、そして自身の人生の中で自らの見識と知識により吟味するよつに勧めました。

それでは「何でもあり」みたいですね。仏教徒は望むことを何でもしても良いように聞こえますが。

いいえ、出家者でない私たちは好きなことを何でもするわけではありません。基準はダルマ(教え)であり、倫理は仏教の大切な部分です。ただし、そつした倫理的な勧めはガイドラインであり、絶対的なものではありません。ブツダは、ダルマ(教え)を私たちが受け入れる前に、私たちの人生の中で吟味することを望んでいました。

仏教が好きな更なる他の理由はありますか？

私は、仏教がその歴史を通して、比較的いかに平和であったかということに感銘を受けます。宗

派間での「宗教戦争」はとても稀なことだったのです。

〈前半終了〉

〈質疑応答 ①〉

① 『広辞苑』によると、「哲学」については、物事を根本原理から統一的に把握・理解しようとする学問とありました。これは仏教の立場なのかなと思いました。一方「宗教」については、神または何らかの超越的絶対者に関する信仰および行事と書いてありました。「何らかの超越的絶対者」はどう解釈したら良いのか？ 例えば「阿弥陀如来」というのは超越的絶対者ではないのでしょうか？

〈質疑応答 ①〉

〈ケネス〉 私の意見としては、阿弥陀如来はある意味では超越的です。けれども「絶対者」というような言い方には抵抗感がありますよね。「超越的で慈悲のはたらきを表す」ということであつたら

当てはまると思います。特に大乘仏教では、超越的な面があります。東南アジアを中心としたテーラヴァーダ（上座部仏教）では、そういう面がほとんどありません。ただし儀式等の実践に関しては仏教にもしっかりとあります。テーラヴァーダでもあります。従って仏教は哲学的な面だけではありません。

宗教に関する定義にはいろいろありますが、パウル・ティリッヒ (Paul Johannes Tillich)／一八八六年～一九六五年)。二十世紀のキリスト教神学に大きな影響を与えたドイツ生まれで、アメリカでも活躍したプロテスタント神学者。組織神学、宗教社会主義の思想で知られる) の定義は有名です。この神学者は、宗教について「ultimate concern (究極的関心)」と言って、「自分にとって最も大切な思いである」という定義をしています。他には、「真理とカリアリティ」ということを認め、それに従って生きる」という定義もあります。そうすると、仏教徒が、最も大切な思いとして、四聖諦や四法印という真理に従って生きるのであれば、以上の二つの宗教の定義には適合していると思います。

② 一年間有り難うございました。ケネス先生のお話はとても分かり易くて、生活の中に活かせるようになって来ましたので有り難く思っています。

〈質疑応答 ①〉

私はクリスチャンです。以前に日本の教会に通っている時にはキリスト教に全然興味を持ってなかったけれども、ある時、アメリカ人から教えてもらって「あー」と思うようになってきました。仏教についても、日本で学ぶよりも、アメリカから逆輸入した方がとても分かり易いように思えます。宗教を哲学的にも見ながら取り入れている。日本では「宗教」というと、何だか違つ方向に受け取られやすいように思います。今の日本の中にある仏教とケネス仏教教室で学んでいるような実践できる仏道には距離があるのかなと感じています。

〈ケネス〉 Mさんは、アメリカ等から来た外国人のクリスチャンによって刺激を受けたということですか？

〈②〉 子供達が教会に行っていたので、私も十何年間も通っていたのですが、私はちょっと無理だなと感じて、しばらく距離をとっていました。ある時にアメリカから来た人にキリスト教の内容を聞いて「あー、こつこつことだったのか！」と魅力を感じたことがあったのです。

〈ケネス〉 例えば旧統一教会などの問題があって、日本では「宗教」という言葉自体が問題ですよね。「宗教二世」という言葉もありましたが、「宗教」だと、例えば伝統的な仏教も含まれてしましますから、本当は「カルト二世」の方が適切だと思えます。

ただし伝統的仏教が「宗教」なのかというと、現代日本における現状を見た場合には、いろいろな

意見もあります。以前にもユーモア小話で紹介したことがありまたよね。「宗教は怖い」という印象が特に日本にはあります。

以前に、京都のとても偉いあるお坊さんが、子供が東京の大学に合格したので、彼の下宿を探すために不動産屋に行きました。すると、そこには「宗教はお断り」と店先の看板に書いてあったのです。それを見たお父さんは不動産屋のご主人に「ウチも宗教なんですよ」と告げたら、「えっ……どの宗教？」と、焦るくらいに反応したそうです。それで「浄土真宗本願寺派ですけれども……」と言ったら、不動産屋さん「ああ何だ、それは宗教じゃないよ」と、緊張が解けるように答えたそうです。(笑)

これは、日本ならではの出来事なんですよね。そのお坊さんは、その時にどのように反応したのかまでは書いていなかったのですけれども、たぶん「ああ、なるほど……」と思われるのではないかと思うのです。日本人の場合には何を〈宗教〉であるかと思っているのかと言つと、例えばオウム真理教のような(今回の場合では「旧統一教会」のような)グループを宗教と思っているのでしょうか。一口に「宗教」と言っても、非常に幅が広いのですね。

③「ブッダはすべての衆生(生き物)は仏性を持っている(一切衆生悉有仏性)と説いた」ということについて質問します。「仏性」ということが、四法印などを自覚できるといふ可能性と、意味であれば、人間はその可能性はあるでしょうが、鳥や魚の動物も自覚に至る可能性と、この

〈質疑応答〉 ①)

どうして人間なのですか？

〈ケネス〉 「ブッダはすべての衆生（生き物）は仏性（ひつじょう）を持っている（一切衆生悉有仏性）」というものの背景には「輪廻転生」という世界観があります。つまり動物も輪廻転生して、生まれて目覚める可能性が訪れるという世界観があるからだという一般的な説明があります。従って、仏教では、このように動物も目覚める可能性はあることを認めるのです。

ただ、私は動物を観ていると、特に犬などは愛情にあふれていて、人間の気持ちもよく読み取り、動物も美しい心を持っているので、ある意味でもう既に悟っているのではないかと思うことがよくあります。また、猫についても同じようなことが言えると思います。特に猫は、悟った人の性格の一つである自主性をしっかりと備えているように思うのです。（そこで、たまたま手元にあったイギリスで有名になったボブという猫の写真を見せる。）

〈質疑応答 ①〉

〈③〉 動物の姿を見ていると、本能だけで生きているので何か神々しいなと思うことがあります。

〈ケネス〉 生きるために他の種を食べることは動物にあります。プーチンのようなことはありませんよ。

人間は六道輪廻（仏教において、衆生がその業（行為）の結果として輪廻転生する六種（地獄・餓

鬼・畜生・修羅・人・天の世界（あるいは境界）に生まれ変わるといふ世界観）の中で「人間」として生まれて来ています。六道輪廻の中では「天人」というのが一番高いレベルなんですね。けれども「悟る」のにベストなのは「人間」なんです。なぜかと言うと、「人間」の世界には苦もあり楽もあります。だから苦ということが分かります。だから「悟りたい」という求道心が生まれて来るのです。「天人」というのは楽だけで苦がないから、楽であるということも分からない。だから「悟りたい」という気持ちも湧いてこないし求道もしません。そして、天人もいずれはその世界を去らなければなりません。輪廻転生ですから永遠ではないのです。仏教における六道輪廻の「天」というのは、キリスト教の「天国」のように永遠の世界ではないのです。

重要なことは、人間として生まれるということは、大変な苦悩もありますが、それを乗り越えて行く心構えも湧いてくるし、悟る可能性もベストであるということです。

人生にはいろいろとありますよね。例えば、愛する人と死別するような苦悩をどのように乗り越えて行くか、どのように対処していくか。そして最終的に自分の人生が有意義であって、人間として生まれて良かったということが〈悟り〉と言って良いのではないかと、私は思うのですよ。お釈迦様のような〈悟り〉は、目標としてあっても良いとは思いますが、私たちとしては、「最終的に自分の人生が有意義であって、人間として生まれて良かったということ」を体得できれば、それを〈悟り〉や

〈質疑応答 ①〉

〈目覚め〉と言えるのではないでしょうか。

だから「人身受け難し、いますでに受く。仏法聞き難し、いますでに聞く。此の身今生において度せずんば、さらにいづれの生においてかこの身を度せん。大衆もろともに、至心に三宝に帰依し奉るべし」という三帰依文の言葉がありますよね。今そのような気持ちにならなかつたら、いつやるのかと。次の生まで待たずに今やりましょつと。

〈Ⅱ〉 仏教ユーモア

● 言葉の遊び・洒落

① フランスでの仏教徒の増加

フランスでの仏教徒は人口の1%と言われていますが、ある学者によれば、実際には3%ほどで、もっと多いそうです。さらに、瞑想、メデイテーションには非常に強い関心があります。

だから、フランスのことを「仏国」と言つのですね。とこいシャレです。

② オーストラリアでのお釈迦様の誕生日

お釈迦様の誕生日はいつだか皆さんは知っていますか？ 四月八日、「花祭り」ですよ。オーストラリアでも仏教徒の数が増えています。お釈迦様の誕生日（花祭り）はオーストラリアでは、四月八日ではなく、八月四日に祝われているそうです。何故でしょうか？

答えは、南半球にあるから「逆さま（シャカサマ／釈迦様）」なのです。

③ 「悟り」の意味

「悟り」の意味を知っていますか？ お釈迦様のような悟った人と凡夫（私たちのような普通の人たち）とはへ差（さ）くがありますよね。そのへ差（さ）くを取るのです。だから「へさくとり（悟り）」なのです。

④ 唯識三年、俱舎八年

「唯識」というのは大乘仏教の大切な思想です。「俱舎」というのは仏教教義の根幹になる大切な

思想です。一人前の僧侶や学者になるためには、唯識を三年間勉強して、併せて『俱舍論』を八年間も学んで、合計十一年かける必要があると昔から言われています。

しかし、この二つとも、特に『俱舍論』は滅茶苦茶に難しいです。ですから十一年間もこんな勉強をしていたら「頭がへくしゃ・くしゃ／俱舍・俱舍」になります！

⑤ 台湾の僧侶

台湾は盛んな仏教国です。特に尼さん（尼僧）たちの元気のいいことが特徴です。

私がアメリカに居た頃に、大学に尼さんが二人留学していましたが、大変勉強家で、最終的に博士号まで取って台湾に帰国しました。二人とも性格的にも積極的に活発でした。台湾では尼さん（尼僧）たちの方が男性僧侶のたぶん四倍くらい多くいて大変活躍していると言われています。

ところで「僧侶」のことをインドのパーリー語で何と言つか知っていますか？ 「Bhikkhu（ビク／比丘）」です。尼さん（尼僧）は「Bhikkhuni（ビクニー／比丘尼）」です。

台湾では、尼さん（尼僧）たちがあんまり活発だから、男性の僧侶たちはいつも「ビク・ビク」しているのです。

⑥ 三毒の G. A. S. (ガス)

仏教で悟りを障たげげらるものは「三毒」と言われています。

「G. A. S.」は、①貪欲 (Greed)′ ②怒り／憎しみ (Anger/hatred)′ ③愚かや (Stupidity) の頭文字から取った「三毒の煩惱」を意味する省略語です。

この憶えやすい頭文字の使用法は、一般的な意味では面白くもないかも知れませんが、教えを学び、憶えるには楽しくて面白い方法だと思えます。「G. A. S.」は苦しみの原因を表しますが、今こころではしない私の授業では「仏教の目的はガス (gas) を放出することだ」とよく言いますが、今こころではしないでくださいかねー。

「嫌悪 (Aversion)」とよく言葉の意味には、怒り／憎しみ (Anger/hatred) の両方の意味が含まれるため、私は実際には「怒り／憎しみ (Anger/hatred)」よりも「嫌悪 (Aversion)」の方が意味としては好ましいのではないかと思います。

● 仏教の特徴

① 今ここに！

キリスト教徒の男が、にぎやかな街角の歩道で、次のように書かれたプラカードを持っている。

「イエスはやって来るー (Jesus is coming)」

それから彼の後ろに仏教徒がいて、笑顔で次のように書かれた彼自身のプラカードを持っている。

「ブツダは今ここにー (Buddha here now)」

「イエスの再臨」というキリスト教の教義によれば、「イエスは将来この世界に（将来）帰って来る」ということが書かれています。ここで登場している仏教徒は、その主な教えの一つを強調し、それと対比しているのです。それはつまり「今ここに生きる」とです。この仏教徒が笑顔で遊び心があるところが、私は好きです。



〈Ⅱ〉 仏教ユーモア

② 皇帝と仏教の師

皇帝：「悟りを開いた人は死後どうなるのだ？」

貫道和尚：「知るわけありません。」

皇帝：「そなたは高僧ではないか！」

貫道和尚：「はい、陛下、それはそうです。でもあいにく、死んだことはありません。」

つまり、おたひ御陀仏ではありません！」

貫道和尚の回答は、仏教がこの人生で目覚めることに関心を持っていることを示すことを意図しています。貫道和尚は（真実の道理に）目覚めた後、既に〈今・ここで〉自分自身に安らぎを感じているため、死後に何が起こるかについて、もつ心配したり気にかけてたりすることはありません。

③ 微笑の国

A：仏教大国であるタイは「微笑ほほえみの国」として知られていると聞いたことがたぶんあるんじゃない？

B：うん、あるよ。

A：タイの仏教徒は、タイではバイクに乗らないことを知ってた？

B：どうして？

A：仏教徒が笑顔でバイクに乗ると、虫が口に飛び込んで歯の間に詰まる可能性があるからだ
よ！

ローマでの異宗教間の集会でカトリック教徒のグループからこのジョークを初めて聞きました。そこで私は、一九七〇年にタイの僧院で僧侶になった時に出会ったタイの仏教徒に合わせて、この話を脚色しました。

タイの人々は一般的にとっても幸せそうでした。私は、それは彼らの仏教信仰によるものであると思います。私のカトリックの友人と同じように、どんな真の宗教も人々がより幸せな生活を送るのを助けることができると私は信じています。

④ 現世利益は本来の仏教ではない

岡本さん： 私の新車を祝福（お祓い）してくれませんか？

僧侶： 祝福（お祓い）からどのよつな恩恵を受けたいと思つのかね？

岡本さん： 新車に悪いことが何も起こらないようにしたいと思います。

僧侶： 祝福（お祓い）は魔法の一種として理解される可能性があるため、また本来の仏教の教えに反するので、私たちは通常は祝福（お祓い）をしないのです。しかし、あなたに安心するのなら、方便としてやってあげましょう。

（数週間後、岡本さんは車が盗まれたことを僧侶に伝えるために、とても憤慨してやってきました。そして、祝福（お祓い）が失敗だったことを僧侶のせいにしたのです）

僧侶： それはとても残念でした。しかし、あの祝福（お祓い）は盗難車には効かないのです。車が事故に巻き込まれるのを防ぐために効果があるのだよ！

この僧侶は、岡本さんが少なくともしばらくの間、彼の車について安心できるよつにとの思いやり

から、やむを得ないと感じていたのです。そして岡本さんは、多くの人々のように、宗教を現世利益のための手段としてのみ見ていたのです。

本来の仏教は、この種のおまじないや恩恵（御利益）を信じていませんでした。しかし、仏教は大勢の人々の宗教となっていく中で、世俗的な欲求に応えるようになりました。

仏教の核心は、物事がうまくいかない時にも前向きに、そして大きな苦しみが無いように対応できるようにするために、私たちの心を育むのに役立ちます。この経験を通して、岡本さんが仏教の真の目的を追求することに関心を持つようになることを願っています。

● 大切な教え

① クリフハンガー（崖っぷちの男）

崖っぷちに必死にしがみついている男がいた。そこに仏様が現れた。



男は仏様を仰ぎ見て、最後の力をふりしぼってこう言う。「ああ、仏様、お助けください。なにとぞお助けを・・・。」

すると仏様はこう言った。「やむを得ないならばその手を離して、しがみつへのをやめなさいー！」

男は自分が崖がけの上において、その下の地面まで百ヤード（約九十一メートル）はあると思っていました。しかし、彼のいる所は実際には地面まで一ヤード（約九十一センチメートル）しかありませんでした！

これは物事がうまくいかない時、または私たちが困っていると感じた時に「もう世界の終わりだー！」と、いかに誤って考えてしまつかとこのことひよの比喩ひよです。しかしブッダの視点からすれば、私たちはしばしば困難をひどく誇張してしまいます。つまり、私たちは「モグラ塚も山に見えてしまう」のです！ブッダは、地面がわずか三フィート（約九十一センチメートル）下にあったので、その男が実は大丈夫であることに気づいて欲しかったのです。

例えば、あなたのチームが非常に重要な試合をわずかな差で負けたとします。それはあなたとチームメイトにとっては衝撃的であり、あなたは百ヤードも落ちたように感じるかも知れません。みなさ

んは一生懸命練習して、もう少しで勝ちそうだったからです。

しかし、大きな枠組みで捉えようと、このように大きな試合で負けることは遅かれ早かれすべてのチームに起こります。ですからブツダはあなたに諭しています。「それは大したことではありません。(そ
のとらわれている思いを) 手放しなさい!」と。

② ブツダと電気掃除機

A: どうしてブツダはソファの下を電気掃除機で掃除することができなかったのか?

B: 分からない。どうして?

A: それは、ブツダにはアタッチメント(隙間用付属部品/執着)がなかったから!

アタッチメントには、「隙間用付属部品」と「執着」

WHY COULDN'T THE BUDDHA VACUUM CLEAN UNDER HIS SOFA?...



BECAUSE HE HAD NO ATTACHMENTS!

とこの二つの意味があるから、このユーモアが成り立つのです。

真実の道理に目覚め、悟りを開いて、もはや苦しめないブツダは、執着（アタッチメント）を克服し取り除いていたのです。

だから、隙間用付属部品という意味の「アタッチメント」もなく、隙間の汚れを吸収することができないのです！

③ eメールの添付ファイル

eメールの友達：君は僕に送った最後のメールに添付ファイルがあると書いていたけど、見つからないよ。

自分：ああ、ごめん。僕はただ良い仏教徒になろうと書いていたんだ。

アタッチメント（執着／添付ファイル）なし！

英語では、添付ファイルも「アタッチメント」と言います。

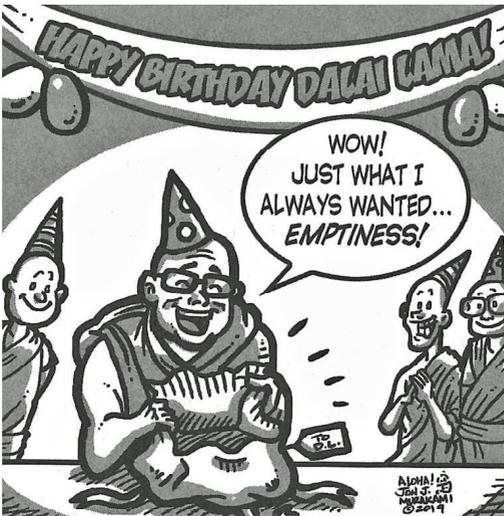
約束通りに添付ファイルを送信するのを忘れた場合は、私は実際にこれを言い訳として使用します。しかし、自分の失敗を正当化するために自分の宗教を使って言い訳をするべきではないことも知っています！

④ ダライ・ラマ師の誕生日プレゼント

今日はダライ・ラマ師の誕生日です。ダライ・ラマを高弟たちが取り囲んでいて、彼らは今しがた手渡したばかりのプレゼントのことでご満悦の様子。プレゼントが入った袋を見下ろしているダライ・ラマ師もご機嫌のようです。

しかし明らかに袋の中にはプレゼントは何も入っていない。そしてダライ・ラマ師は大きな声でこう言っています。

「おお、この贈り物はまさに私にうつってっけ……へ空（くう）（emptiness）くわあー」。



「空」^{くう}とは、(仏教では)他のものと相互に関係し合つことによつてすべてが生じ、存在するといふ真理を指します。ですから、完全にそれ自体で発生し、ずっと存在するものは何もありません。もしそんな物事が存在した場合、それは「それ自体の独自の変わることはない性質(自性)^{じじやう}」と呼ばれるでしょう。この「空」といふ真理を説明するには「すべてのものは、そのような自性を欠いている」という別の言い方もあります。

しかし、この「空」といふ真理を理解するためには、膨大な量の研究と実践の後に深い智慧^{ちゑ}が必要なのです。だからこそ、ダライ・ラマ師でさえとても大切にしているのです。

このユーモラスなシーンで、ダライ・ラマ師は、誕生日プレゼントが入っていなかったため、袋が空っぽであることに気づきました。その中には何も入ってなかったのです。それで、師は賢明に同じ言葉、〈空^{くう}(emptiness)〉を意図的に使用することによつてジョークを言います。それは「空」について前述したような仏教の深い洞察によるものです。

私はダライ・ラマ師のユーモアのセンスが大好きです。これは真理に目覚めている人、または目覚めに向かう過程にある人に見られる資質です。

⑤ 仏教徒の検死官がクビになる

非常に熱心な仏教徒の検死官がいた。彼は自分の宗教（仏教）で真摯に人生を送ろうとした。しかしある日、彼は郡の検死官としての仕事から解雇されたのです。

彼が職を失った理由は、彼が発行したすべての死亡診断書に、同じ理由を死因として書いたためである。それは、心不全や脳卒中などの通常の一般的な死因ではなく、同じ原因しか書かなかったのです。

つまり、「生」、生まれたからだ、と！

この医師（検死官）の考えは「私たちは生まれたから死ぬ」ということです。言い換えれば、私たちが生まれていなかったら死ぬ必要はありません。残念ながら、彼は自分の宗教を真剣過ぎるほど受け入れ、それを検死官としての仕事に熱心に適用しました。医者として、この検死官は彼の宗教的信念を不適切に適用するのではなく、特定の医学的死因を見つければべきでした。

このジョークは、仏教の輪廻りんねの教えや「生と死のサイクル（ヒンドゥー教では生まれ変わり）」に

基づいた医師の見方を理解すれば、よりよく理解できます。仏教の目的は、(真実の道理に) 目覚めることによって、輪廻や生と死のサイクルから解放されることです。つまり、人はもはや生まれて、この終わりのないサイクルを繰り返す必要はありません。言い換えれば、生まれなければ死ぬことはありません。

輪廻は仏教以前から信じられており、仏教が始まった時に既に共通の世界観として仏教徒によって受け入れられたことを指摘しておく必要があります。私の見解では、それは仏教の中心的な教えを構成するものではないので、「生まれ変わり」の文字通りの意味を信じるのに、仏教徒である必要はありません。実際、今日の多くの仏教徒はそれを文字通りに受け入れるのではなく、より象徴的に理解しています

● 目覚めた人

① 源左さん／ありがたい！

「源左さん」というのは浄土真宗の妙好人(優れた篤信者)です。ある時、土砂降りの雨の中

で一日中働いていました。夕方になってお寺の前を通って帰ろうとしたら、その住職さんが「苦勞様、源左さん。こんなびしょ濡れになって大変ですね」と言ったら、

源左さんは「有り難い、有り難い」しか言いませんでした。それで住職さんは「何で有り難いんだ。こんなびしょ濡れになって」と問いましたら、源左さんは「有り難い。わしの鼻の穴が下に向けて有り難い」と答えたそうです。

悟った人というのは、〈当たり前〉の事を感謝するという面があるのですね。私たちが当たり前だと思つことに対して、すごく感謝するのです。

② 道元禪師／中国留学して学んだこと

道元禪師（一二〇〇年～一二五三年／鎌倉時代初期の禪僧。曹洞宗の開祖）が、中国への留学から帰国した時のことです。ある人が「一生懸命に中国でどんなことを学んでいらしたのでしょうか？」と問つたところ「眼横鼻直（まなこよこばなただ）」と答えたそうです。

つまり眼は横に並んでいて、鼻は縦にまっすぐ（直）にあるということです。それは〈当たり前前〉のこじりすぎな。

（あたり前の事実を〈ありのまま〉に見て、しかも、そのままである真実をつなずき受け取る。私たちは果たしてすべてを、見るがまま、聞くがまま、あるがままに受け取っているでしょうか？）

③ 一休禪師／曲がりくねった松をまっすぐ見る

お寺の前に曲がりくねった松の木がありました。一休禪師（室町時代の臨済宗大徳寺派の僧侶）は、そこに看板を立てました。「この曲がりくねった松を〈まっすぐに〉見た人には大きな褒美を与える」と看板には書いてあります。すると、いろいろな人が来て、「私は瞑想をしたから松がまっすぐに見えるようになった」とか言うのですが、それは一休さんにとっては正解ではありませんでした。

そしてある時、旅人が来て「おお、この松は本当に曲がりくねった大した松だ！」と言ったところで。そうしたら一休さんは門から飛び出して来て「あなたが正しい答えだ！」と言って褒美を与えたという話です。

それは仏教の根幹に関係するのですよね。「曲がった松をまっすぐに見る」ということは、実際にまっすぐに見るといふことではなくて、〈そのまま〉あるがまま(ま)に見るということなのです。つまり、曲がりくねったことをそのままに見るといふことです。

仏教では〈そのままに見る〉といふことを教えます。煩惱に惑わされずに〈そのままを見る〉。例えば、いろいろな人種や国籍の人がいるけれども、偏見を持って見るのではなくて、いろいろな飾りとか先入観を外して、人間として〈そのまま〉として見るといふことです。

④ ダライ・ラマ法王の前世

インタビュアー： 法王は、死んで生まれ変わった、先代のダライ・ラマが生まれ変わ

り継承した十四代目ですね。前世のことで何か憶えていますか？

ダライ・ラマ師： 前世のことを憶えているか？ うーん……実は、最近はずいぶん、何をしたのかすら憶えていないんだよ！

これはアメリカの放送局ABCの「ナイトライン」というテレビ番組でテッド・コッペルがダライ・ラマ師に行ったインタビュの最後での実際のやり取りです。

生まれ変わりは、長く永続的な伝統を反映しており、二百万人の視聴者を前にしたテレビ番組で簡単な質問で本当の価値を認めることはできません。それで、ダライ・ラマ師はユーモアで賢く対応しました。この後、インタビュアーのテッド・コッペルは自分の質問がいかにも不適切であったかを理解し、恥ずかしさから顔を赤くしてひたすら謝罪しました。

簡単に言うと「ダライ・ラマが生まれ変わる」という伝統には数百年の歴史があります。この信仰の伝統の中では、チベット仏教徒は、彼らの最も高いランクのチベット僧であるダライ・ラマは死んだ後に再び生まれ変わると信じてきました。この伝統では、ダライ・ラマが亡くなると、チベット全土で生まれ変わったとされる子供を見つげるための捜索が開始され、その子供は次のダライ・ラマになるための教育と訓練を受けます。

〈Ⅲ〉歴史を変えた仏教の教え

セイロン（現在のスリランカ）の代表 J. R. Jayawardene 氏の『法句経（五）』から引用した発言が、戦後の日本の回復を手助けしました。一九五一年の平和条約の可決に貢献したと言われているのです。彼の発言なしに、多額の賠償金が日本に課せられていたら、日本の経済は破綻して、戦後の成長はなかったかも知れません。

“Hatred ceases not by hatred, but by love.”

憎しみは憎しみによって止むるまじし。愛によって止むるまじし。

これは、仏教徒以外の人々を対象に、短くした『法句経（五）』からの引用文です。また、「love」という言葉も効果的だったと言えます。本来の文章は…

憎しみは、憎しみによって鎮ぬべし。愛によって鎮ぬべし。

憎しみは、憎しみを捨てることよって鎮ぬべし。

これは永遠の真実である。

（『パーリ法句経』より）

〈質疑応答 ②〉

〈ケネス〉 今日、取り上げた話の中で皆さんが面白かったのはどれでしょうか？

〈①〉 今日のお話の中では「クリフハンガー（崖がひっぶちの男）」が面白かったですね。

〈ケネス〉 あれは、私たちが困難だと思ってしがみついている時に、自分に言い聞かせるためのユーモアです。皆さんも連れ合いにカッとなった時に、この話を思い出してください（笑）。今、自分がカッとなっていることは、本当に「百メートルの崖がひっぶち」の話なのか、実際は「一メートルの話」なのかと思いついてみてください。私もこのイメージを思い返して救われた時がけっこうあります。

〈質疑応答 ②〉

〈②〉 「唯識ゆいしき三年、俱舎くしや八年」の話に興味があります。私たちが浄土真宗を学んでいく上で「唯識」というのは大事なんでしょうか？

〈ケネス〉 勉強しても良いですが必修ではありません。ただ僧侶とか指導者になるのであったら、やはり唯識を勉強するべきですよ。ただ、あまり考え過ぎると頭がへくしゃ・くしゃになりませんか

ら（笑）。「おまかせする」ということが最終的には大切なことですからね。

〈ケネス〉

はい、これで第六期の仏教教室を終わりたいと思います。今日、最後に紹介しました「R. Jayawardene氏の「Hatred ceases not by hatred, but by love.（憎しみは憎しみによっておさまらない。愛によっておさまる。）」という仏教からの言葉が、日本の戦後の歴史に大きな影響力を持ったということも憶えておいてください。

皆さん一人ひとりが、物事をどのように考えるか、どのように物事を見るか、どのように人生を見るのかによって、あなたが幸せになるか、幸せにならないかが決まるのですよ。ですから是非、この講座で学んだことを自分のものにして、それを真摯に歩んでゆくと、必ず以前よりも幸せになれます。以前よりも確信が身につきます。学んでもすべて忘れてしまっということもありますが、何回も何回も学び直してみてください。

先ほどの唯識思想には「**正聞薰習**」という言葉があります。「**薰習**」というのは、煙製みたいに、学んだ教えが香りのようにいつの間にか身にひびいてくることです。正しいことを何回も聞くことによって、心が以前よりも浄化して行って幸せになるといいます。

〈質疑応答 ②〉

●この講義録は、いくらかでも分かりやすくするために便宜的に編集・補足・加筆をしてあります。また、講義後の質問も応答も、聞き取れない部分があったりすること等から、ある程度整理してまとめた形にしておりますことをご了承ください

本稿は、字句や内容の訂正や付け加えが行われることを前提として、編集者の責任において仮に作成した草稿のようなものです。間違いなどございましたら、どうかご教示いただければ幸いです。

なお、講義の内容について転用・引用等をする場合には、必ず〈出典〉を明記してください。

〈質疑応答 ②〉